

# 「アイクレオ」ブランド通信

～日本初の乳児用液体ミルクで、誰もが育児しやすい社会へ～

## 創業以来変わらない「子どものココロとカラダの健やかな成長」への想い



江崎グリコは、今から約100年前の1922年に創立しました。菓子から始まった事業は100年にわたり領域を拡げながら、今では、アイス、乳製品、加工食品などへと事業を展開するまでに至っています。

そうした中、100年間で変わらないものの一つが「子どものココロとカラダの健やかな成長」への想いです。

## 赤ちゃんの成長と発達をサポートする「アイクレオ」

“赤ちゃんのために、母乳に近いミルクを”。  
そんな想いを抱えた小児科医グループが開発したミルクが、「アイクレオ」の原点です。

母乳の成分を徹底的に研究し、栄養バランスだけでなく、味・色・香り、体への優しさまで、母乳に近づけたミルクづくりを目指しています。



## 「アイクレオ」商品ラインアップ



愛とたしかな栄養に満ちた、アイクレオのこだわりの証です。  
すこやかな発育への願いを込めた品質を、お子様とご家族に届けます。

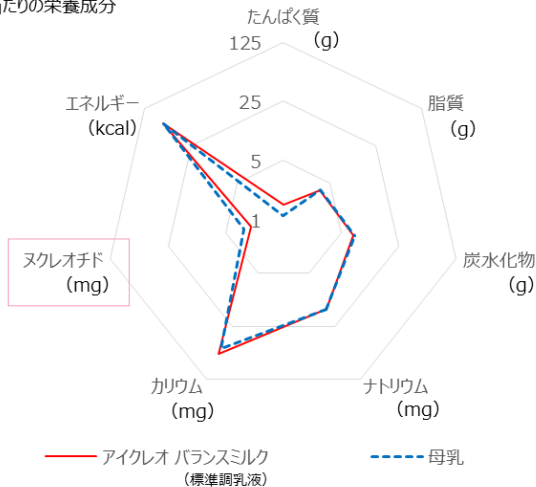


「アイクレオ」は母乳を目指し、成分一つ一つと原料にもこだわりながら、赤ちゃんのうんちについて考えた、やさしいミルクです。

## 「アイクレオ」の3大特長

### ① ビフィズス菌を増やす “ヌクレオチド” を母乳に近い量配合

100ml当たりの栄養成分

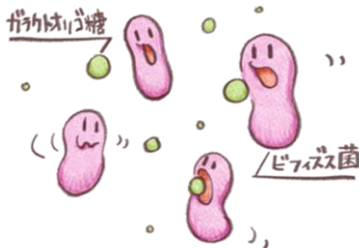


「アイクレオ バランスミルク」は、赤ちゃんの成長に必要な“母乳に含まれる5種類のヌクレオチド※1”を国内のメーカーで初めて配合しました。ここまで母乳に近づけた量※2のヌクレオチドを配合している粉ミルクは、「アイクレオ」だけです※3。さらに、その他の成分についても、母乳をめざし、ひとつひとつこだわって配合しています。

また、乳児用液体ミルク「アイクレオ 赤ちゃんミルク」も、バランスミルク同様に母乳に近づけた配合となっています。

※1 ヌクレオチドのうち主要な5種類の成分（5'-シチジル酸、5'-ウリジル酸ナトリウム、5'-アデニル酸、5'-イノシン酸ナトリウム、5'-グアニル酸ナトリウム）を「バランスミルク」に配合。※2 ヌクレオチド5種類の総量について ※3 2018年6月 当社調べ

### ② ビフィズス菌に働く “ガラクトオリゴ糖” を配合



ビフィズス菌を増やすオリゴ糖は、たくさんの種類があります。「アイクレオ」のミルクは、母乳にも含まれるガラクトオリゴ糖を配合することにこだわりました。母乳で育てている赤ちゃんのうんちを、めざしています。

### ③ 母乳と同程度の赤ちゃんにやさしい塩分量



赤ちゃんも大人と同じで、塩分をとり過ぎると体に水分がたまりやすくなります。だから、母乳と同程度の塩分量におさえました。

※生後9か月間（哺乳量230リットルとして）に母乳もしくはミルクから摂取するナトリウム量を食塩量へ換算（食塩量換算式：ナトリウム量  $g \times 2.54$ ）

※生後9か月間の食塩摂取目安量は189g（日本人の食事摂取基準2020年版から算出）

## 日本初の乳児用液体ミルク「アイクレオ 赤ちゃんミルク」

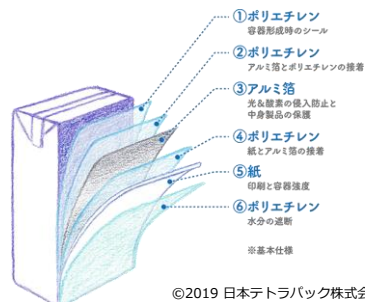
### ● 日本初の液体ミルクを発売

日本で2018年8月の法令改正で製造・販売が解禁され、2019年1月31日に厚生労働省、3月5日に消費者庁より日本で最初に承認・許可を受けた江崎グリコから、日本で初めての液体ミルク「アイクレオ 赤ちゃんミルク」が同年3月5日に発売されました。

赤ちゃんにとっては母乳は最良の栄養ですが、粉ミルクと同じ栄養成分で、母乳が足りない時だけではなく、夜中の授乳やお出かけの時などにも、調乳の必要なく常温で飲ませることができます。また、紙パックに無菌充填されており、9カ月間の常温保存が可能なのも「アイクレオ 赤ちゃんミルク」のポイントです。

### <ポイントその1> 世界で一番使われている「紙パック」

海外の乳児用液体ミルクで主流となっている紙パックを使用。6層からなる構造でしっかりおいしさを守ります。しかも軽くて持ち歩きやすく、捨てやすいのも特徴です。



### <ポイントその2> 赤ちゃんにごくごく飲んでほしい安心の「白さ」

乳児用液体ミルクは長時間かけて加熱殺菌すると、ミルクの成分が焦げ、茶色がかかります※。「アイクレオ 赤ちゃんミルク」は、超高温短時間殺菌で余分な熱を加えないことで、ミルク本来の白さを実現しました。

※レトルト加熱殺菌。グリコ試作結果より。

アイクレオ  
赤ちゃんミルク



グリコサンプル  
※レトルト加熱殺菌



### <ポイントその3> 長期保存も安全安心

成分ひとつひとつと原料にこだわったミルクを、「無菌パック製法」で無菌化された状態でつめるので、常温で賞味期限9カ月の長期保存が可能です。そのため、いざというときの備えにも安心です。



商品名：アイクレオ 赤ちゃんミルク
希望小売価格：216 円前後（税込）
賞味期限：9カ月
保存方法：常温を超えない温度で保存
内容量：125ml
主な使用シーン： 災害時・深夜の授乳時・外出時・調乳に不慣れな方に赤ちゃんを預ける時など
許可表示：母乳は赤ちゃんにとって最良の栄養です。「アイクレオ赤ちゃんミルク」は母乳が不足したり与えられない場合に母乳の代わりをする目的で作られたものです。



## そもそも“液体ミルク”とは？

### ● 調乳なしでそのまま飲める液体ミルク

液体ミルクは、栄養成分は粉ミルクと同じで、そのまま授乳できるように調乳済みの状態で販売されている母乳代替製品です。常温保存ができるため、外出時の持ち運びや普段使いのストックにも安心・便利。調乳不要のため、お湯や温度調整用の水を持ち歩く必要がない、誰でも簡単に授乳できるなど、様々なメリットがあります。

### ● 世界では授乳方法の一つとしてスタンダード

授乳期の栄養方法として液体ミルクは様々なメリットから世界中で広く普及しています。

育児先進国の北欧ではとりわけ液体ミルクの利用者が多く、スウェーデンでは粉ミルクと乳児用液体ミルクはほぼ半々、フィンランドにいたっては乳児用液体ミルクが9割以上です。特に、共働きの多いフィンランドでは、乳児用液体ミルクを利用して調乳時間を節約し、赤ちゃんとお過ごす時間を増やしていると考えられます。

#### 【フィンランド・スウェーデンのパパ・ママの声】

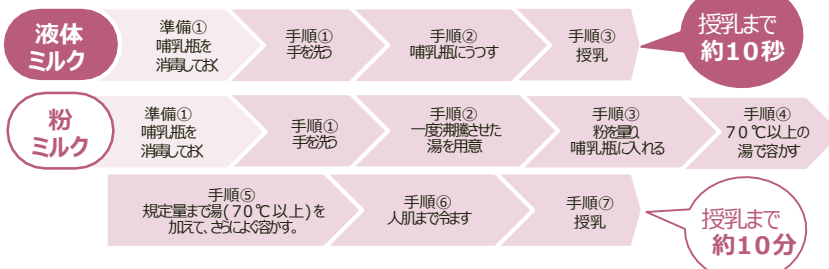
母乳メインで液体ミルクも利用しています。薬の服用後24時間は母乳をあげられないので、普段から慣らす意味で1日1回は液体ミルクです。液体ミルクなら夫でも授乳ができるので、夫が子どもたちを連れ出される土曜日には、安心して自分の時間が持てます。[フィンランド 5か月と6歳 2児のママ]

育休は最初の3週間と1年後に6ヶ月取得。6ヶ月の育休時は妻が職場復帰しており、子育てを自分がリードすることで、親としての自覚が強くなりました。授乳に活用したのは液体ミルクです。値段は粉より少し高いものの泣いている赤ちゃんを抱っこしたまま準備できて便利。[スウェーデン 2歳男児のパパ]

### <カンタン授乳！液体ミルクの特徴>

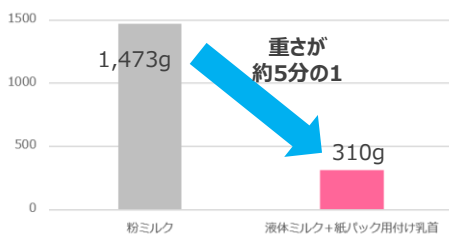
- 粉ミルクと同等の栄養成分
- 開封前なら長期保存が可能
- 新生児から利用可能
- 欧州では女性の社会進出を背景に1970年代から普及
- 調乳の必要なし
- 常温保存可能

#### ・液体ミルクと粉ミルクの授乳までのステップ比較

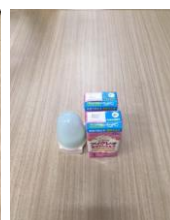


#### ・外出時の荷物量に大きな違い

※ジェクス社「チュチュ」紙パック用乳首」使用時



粉ミルクの場合



液体ミルクの場合

#### 液体ミルクの準備から授乳までの手順

※アイクレオ 赤ちゃんミルクの場合



液体ミルクと消毒した哺乳瓶を用意



液体ミルクと哺乳瓶のフタを開ける



液体ミルクを哺乳瓶に注ぐ



哺乳瓶に乳首をつけて授乳



## 家族で共に取り組む育児 “Co育て※” を促す「液体ミルク」

### ●2022年4月からの「出生時育児休業」により変化が期待される日本の育児環境

現在日本は、育児先進国と比較して、夫の家事・育児時間が少ないと言われています。(図1) そんな中、子どもの出生直後に父親が休みを取りやすくする「出生時育児休業(男性版産休)」を新たに設ける改正育児・介護休業法などが2021年6月に成立し、2022年4月から順次施行されます。子どもが生まれてから8週間以内に計4週間分の休みを取れるようになり、企業には従業員に育児取得を働きかけるよう義務付けられています。政府は、令和2年度で12.65%の男性取得率を令和7年に30%まで引き上げる目標を掲げています。(参考:厚生労働省 WEBサイト「育児・介護休業法について」)

こもだてプロジェクト

### ●Glicoの「Co育てPROJECT」

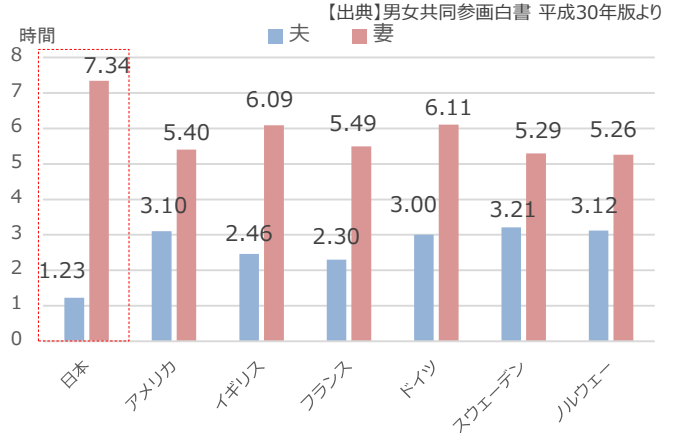
Glicoグループは“事業を通じ社会に貢献する”をテーマに、創業以来、子どものココロとカラダの健やかな成長に寄与する事業に取り組んできました。

2019年2月からは、生まれる前から、みんなで一緒に子育てに関わり、家族の幸福と子どもの健やかな成長を応援する、Glicoグループの子育て支援の取り組み「Co育てPROJECT」をスタート。社外においては、「アイクレオ 赤ちゃんミルク」をはじめとする商品や、パパママ向けのオンライン育児セミナーなど様々なサービスの提供を行っています。

また、社内においては全社員が1か月の育休を取得することを必須化した制度「Co育てMonth(マンス)」の導入や、「男性育休」をテーマにした社内イベントなども開催。社内外において、家族のコミュニケーションや育児協同を促し、良好な関係づくりを促進する取り組みとして展開しています。

※Co育て: Communication(和気あいあいと)・Cooperation(上手に協力しながら)・Coparenting(一緒に子どもを育てる)の3つの“Co”を取った造語で、Glicoグループが提唱する子育てのスタイル。

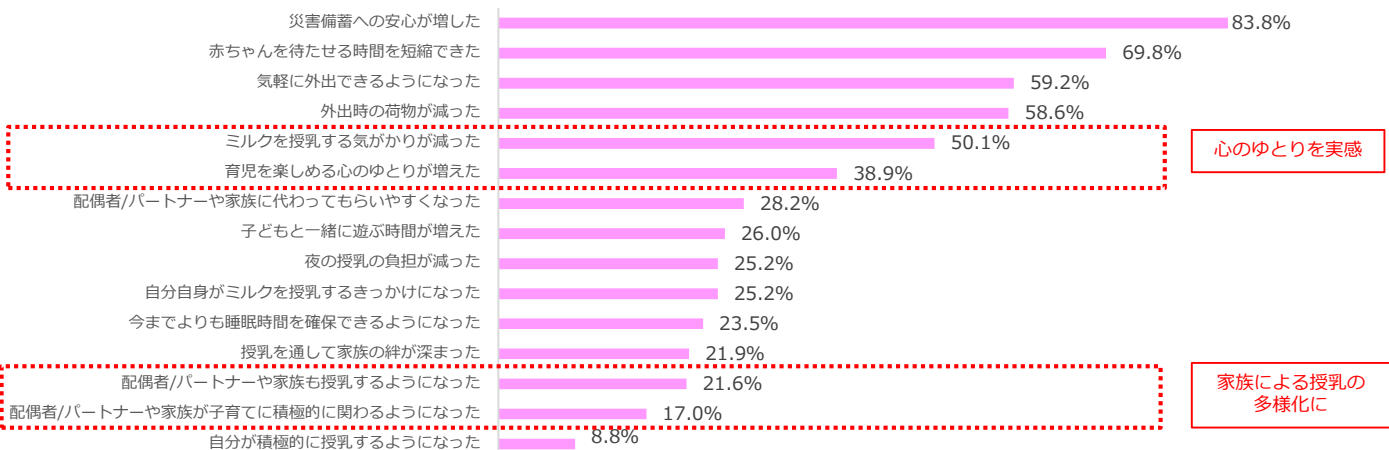
図1【6歳未満の子どもを持つ夫の1日当たりの家事・育児時間】



### ●「液体ミルク」は災害時や外出時だけでなく、日常での“不安”や“負担”軽減に貢献

「液体ミルクを使用後の育児変化」に関するパパママへの意識調査(2020年2月)では、「災害備蓄への安心が増した」が83.8%、「気軽に外出できるようになった」が59.2%、「外出時の荷物が減った」が58.6%と、災害時の不安や外出時の準備負担の軽減を感じているパパ・ママが多いことが分かりました。また、日常においても、「赤ちゃんを待たせる時間を短縮できた」が69.8%、「育児を楽しめるゆとりが増えた」が38.9%、「配偶者/パートナーや家族に代わってもらいやすくなった」が28.2%と、簡単さゆえに、心のゆとりも感じているパパ・ママが増えていることが明らかになりました。さらに、「配偶者/パートナーや家族も授乳するようになった」が21.6%、「配偶者/パートナーや家族が子育てに積極的に関わるようになった」17.0%と、液体ミルクが、家族による授乳の多様化の一因にも繋がっていることがうかがえました。

【液体ミルクの使用後の育児の変化】(使用経験者n=343)



## 男性の育児参画の重要性 ～専門家の声～

### 【京都大学大学院 教育学研究科 教授 明和政子(みょうわ まさこ)先生】

- 育児現場でよく使われる脳内のネットワーク「親性脳」は、親になった時点で自然につくられるものではなく、育児経験を通じてしだいに形成されていくもの。親性脳は、子育てに関わることで誰もが獲得し得るものであり、そこには生物学的な性差（男女差）はない。「共同養育」こそが、人類にとって自然な子育ての形。
- 海外の研究から、性差にかかわらず、育児経験が多い親ほど、親性脳を構成するネットワークが強く活性化することが示されている。
- 男性が親性脳を発達させる上で、特に効果的な育児行動としては、親子の直接的な身体接触をとまなう「オムツ替え」と「授乳」が挙げられる。



※詳細はこちら：[Glico Co育てNEWS LETTER第6号「科学からひも解く“男性育児”」](#)

### 【大正大学 心理社会学部 人間科学科 准教授 田中俊之(たなか としゆき) 先生】

- 男性も、妊娠期から子育てに関わることが大切。それにより、赤ちゃんへの愛着が育まれ、徐々に父親になる自覚が形成される。
- 誕生から1年間は、とりわけ赤ちゃんとの愛情に基づいた関係を築くために重要とされている期間。授乳や寝かしつけなど、できる育児を増やすことで、良好な親子関係につながる。
- 育児を通じて、柔軟な時間感覚を身につけた男性は、個々の家庭にとってはもちろん、企業にとっても貴重な人材だと考えられる。



※詳細はこちら：[【男性育休取得者、および取得予定者とそのパートナーへの育休意識調査】](#)

## 「アイクレオ」ユーザーの声（“マザーズセレクション大賞2021”投票より）

マザーズセレクション大賞は、子育てをする日本のママの自由投票による得票のみで選出されるものです。“マザーズセレクション大賞2021”（主催：一般社団法人日本マザーズ協会）では、母乳を目指し品質にこだわった「アイクレオ赤ちゃんミルク」について、誰でもそそぐだけで準備できる簡単さや、軽くて持ち歩きやすい点などに対し、高い評価をいただきました。



赤ちゃんミルクは、ミルクブランド初の3年連続の受賞

### 【投票の際に寄せられた代表的な声】

- 外出時にも使えるが、疲れた日の夜中にミルク作りは辛いので、簡単に使える液体ミルクを使用していた。心の拠り所でした。
- 双子育児中ですが、荷物も少なく済みました。待たせずにすぐに飲ませられるのも助かります。
- 帰省など長時間の移動時に大変お世話になりました。容量が使いきりやすく、持ち歩くときも、かさばりにくいところが重宝しました。
- 量が1・2カ月からでもちょうどいい！そのまま飲ませられるから、夜泣きの際に飲ませたり、備蓄できる！



## その他さまざまな当社の“子育て支援”取り組み

### ● オンラインでの“子育て支援”取り組み

アイクレオでは、赤ちゃんの月齢や、ママ・パパが気になるテーマに合わせた「オンラインお話し会」を実施しています。栄養士や管理栄養士の資格を持つ「子育てアドバイザー」がママ・パパのちょっとした不安やお悩みに寄り添ったお話をいたします。気軽に、少人数での育児相談ができるお話し会もご用意しています。

<テーマの一例>

- ・母乳とミルクのお話し会
- ・多胎児ファミリー向け 母乳とミルクのお話し会
- ・離乳食のお話し会
- ・季節のお悩み解決セミナー
- ・赤ちゃんを災害から守る勉強会 など

※詳細はこちら：<https://with.glico.com/icreo-seminar/>



オンラインサービス  
「多胎児ファミリー向け母乳とミルクのお話し会」の様子

### ● グリコお客様センター 子育て相談室

栄養士や管理栄養士の資格を持つ「子育てアドバイザー」が、お電話で直接栄養や育児のご相談を受け付けています。

☎0120-050-369

受付時間10：00～16：00（土日・祝日、夏季休暇、年末年始は休業）



### ● 双子や三つ子など多胎育児をする家庭の孤立を防ぐための“多胎児家庭支援”

双子や三つ子などを育てる多胎育児においては「授乳回数の多さ」「睡眠不足」「過大な心身への負担」など過酷な実態が問題となっています。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、子育て支援センターなどの利用制限や遠方の親の支援が得られにくいなどの状況も見られます。

上記問題に対し、江崎グリコとして育児負担の軽減に寄与できることを考える中で「多胎児をもつご家庭への支援」というミッションを掲げる、一般社団法人日本多胎児支援協会の協力をいただき、2020年7月に多胎児家庭向けの「液体ミルク」購入補助支援を開始しました。本支援に対し、多くの多胎児家庭から反響をいただき、支援登録団体数は、開始当初の10団体から21団体へ拡大。さらに、多胎児家庭・支援登録団体からの、強い支援継続要望を受け、この度、支援期間を2023年7月14日まで延長することとなりました。



また、多胎児のママ・パパなどの保護者であれば誰でも気軽に相談できる場として、2021年12月に開始した育児支援のオンラインサービス「多胎児ファミリー向け母乳とミルクのお話し会」(無料)に加え、2022年10月から多胎児支援団体に登録しているご家庭を対象にした「オンラインお話し会」を新たに開始します。これらの取り組みを通じて、多胎児家庭(プレママ・プレパパも含む)のさまざまなお悩みに寄り添い、多胎児の産前・産後・子育ての切れ目のないサポートをしていきたいと考えています。

#### 【支援登録団体へ寄せられた「液体ミルク」購入支援への多胎児家庭からの声(一部抜粋・原文)】

- ・双子が家で手に負えなくなった時に、散歩やドライブなどして親子で落ち着きたいのですが、ミルクを考えるとどうしてもハードルが高かったです。それが、今では外出が気軽にできるようになりました。
- ・外出時だけではなく、夜中のミルクも楽でストレスが減り、双子を可愛がる余裕ができました。
- ・双子ならではの可愛さもありますが、やはり大変なことも多い双子育児。多胎児支援によって金銭面で助けられているのはもちろんですが、液体ミルクを使うことへのハードルが下がったことで、精神面・体力面でとても助けられています。
- ・外出時は今まではキッズスペースや授乳室の存在を確認しながらでしたが、気軽に外出できるようになり、気分転換にもなりました。
- ・外出時のミルクの準備は私(母親)がいつも一人でやっていましたが、父親に任せられるようになりました。温めたりせずそのまま飲ませることができるので、家族や祖父母も手軽に利用でき、とても重宝しています！

※詳細はこちら：<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/39821/>



## <コラム> 日常だけでなく災害時にも役立つ「液体ミルク」

### ● 液体ミルクと災害備蓄

災害大国・日本では、地震や台風などで毎年各地に多くの被害がもたらされます。災害時の育児環境は極めて過酷になるため、災害時にも安全性・利便性の高い液体ミルクの備蓄を進めることが今後の対策の一つとなります。

2018年の北海道胆振東部地震の際、海外から救援物資として液体ミルクが提供されましたが、当時はまだ日本での販売が解禁されていなかったことに加え、安全性への不安や、使用方法の周知が不十分であった結果、ほとんど使われずに廃棄されてしまうという出来事もありました。

液体ミルクの正しい理解と定着は、赤ちゃんのための災害備蓄の観点からも重要な課題です。



調乳なしでそのまま飲める  
「液体ミルク」は赤ちゃんの  
災害備蓄として不可欠

### ● 液体ミルクの日本解禁への道のり

液体ミルクは1970年代から世界各国で普及していますが、日本では食品衛生法、健康増進法（特別用途食品）ともに、母乳代替品は粉ミルクしか基準が設定されていなかったため普及が進みませんでした。しかし昨今、液体ミルクを要望する声が高まったことを受けて2018年に基準が設定され、日本でも製造・販売が解禁されました。

その背景にあったのが2016年の熊本地震でフィンランドから提供された液体ミルクが注目されたことです。災害時のストレスで母乳が出にくくなったり、粉ミルクを作るための清潔なお湯の入手が困難なことから、液体ミルクの必要性を訴える声が一気に高まりました。

液体ミルクの衛生面での信頼性は高く、世界保健機関(WHO)と国連食糧農業機関(FAO)では、感染リスクが高い乳幼児のために、災害時には粉ミルクよりも無菌状態の液体ミルクを推奨しています。日本でも、金属缶、レトルトパウチ、紙パックの容器で規格基準が設定され、液体ミルクの製造・販売が可能になりました。

### ● 自治体と連携し、“防災”に加え “子育て支援”を推進

「道の駅」に関し、国土交通省では、2020年 から 2025 年までを“次のステージ”と位置づけ、強化すべき項目の一つとして「防災機能」と「子育て支援」を掲げています。2021年1月14日に、島根県飯南町、一般社団法人飯南町観光協会、江崎グリコは、『道の駅 赤来高原における相互協力に関する連携協定』を締結し、防災の重要拠点の一つ「道の駅」において、災害発生時に熱源や器具を必要としない食品(乳児用液体ミルク、レトルト食品、菓子)の備蓄を三者協働をスタートしました。中でも、液体ミルクでは、同所での常時販売を通じ、その商品在庫を備蓄としながら、売れた分を新たに補充していく「道の駅ローリングストック法」を実施することで、“防災”だけでなく“子育て支援”にもつなげています。

さらに、2021年12月からは“子育て支援”強化施策として、自治体・道の駅に加えて、保育園も連携した「道の駅ローリングストック法」が、全国で初めて開始されました。「道の駅赤来高原」では、賞味期限が近くなった店頭販売分の液体ミルクを、自治体を買取し、町内保育園4カ所にて、授乳や給食等に活用する取り組みを行っています。これらの取り組みは、保育園での日常の防災意識の向上や、フードロス削減にも繋がっています。

